

ミスト散水処理によるトルコギキョウの高品質生産

1. はじめに

11～12 月に出荷されるトルコギキョウ生産では、定植時期が高温期にあたるため、切り花長の不足、花蕾数の減少等が起こりやすく、切り花の品質低下が問題となっています。一方、温室内でのミスト散水処理は、気化熱の利用による気温の低下を図ることが期待できます。そこで、ミスト散水処理の高温回避効果による切り花品質向上の可能性について検討しましたので、その結果を紹介します。

2. 試験方法

表 1 に示した「彩の波」等の 4 品種の冷蔵処理苗を 2009 年 8 月 25 日にガラス温室へ定植しました。ミスト散水処理には、霧状の散水が可能な灌水チューブ（住化農業資材株式会社：ミストエース 20 ハウススクール）を用いました。8 月 29 日から 9 月 29 日までの毎日（ただし、曇雨天日であった 9 月 12 日、15 日および 22 日を除く）、午前 8 時 30 分から午後 3 時 30 分まで、15 分間に 1 回 35 秒間のミスト散水を行う区と行わない区を設け、その後の生育・開花について調査しました。

3. 試験結果

ミスト散水処理を行った区では、無処理区と比較して晴天日の日中には約 3℃の気温の低下が認められました（図 1）。「彩の波」を除くすべての品種において、開花までの日数が、ミスト散水を行った場合に有

意に長くなり、早期開花を防止できました。その結果、切り花長は、「一番星」を除くすべての品種でミスト散水処理区を行った場合に長くなりました。切り花重は、すべての品種でミスト散水処理において無処理区よりも重くなり、ボリュームに優れる切り花を生産できました。また、「マシュマロピンク」を除くすべての品種で花蕾数が増加し、茎径も太くなる傾向がみられました。

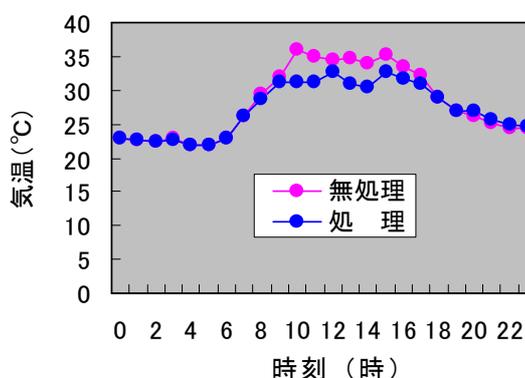


図 1 処理期間中（9 月 5 日）における気温の推移

4. おわりに

以上のことから、8 月下旬定植のトルコギキョウ栽培において、定植後から約 1 ヶ月間、ミスト散水処理を実施することにより、早期開花の防止が図られ、切り花長、切り花重および花蕾数に優れる切り花を生産できる可能性が示されました。

（園芸部 島 浩二）

表1 ミスト散水処理がトルコギキョウの生育・開花に及ぼす影響

品種	開花までの日数		収穫までの日数		切り花長		切り花重		有効花蕾数		茎径	
ミスト散水処理	(日)	(日)	(日)	(日)	(cm)	(g)	(輪)	(mm)				
「彩の波」												
有	67.4	ns	86.0	ns	59.8	*	45.8	*	4.8	*	4.9	*
無	63.8		85.0		56.1		27.8		3.8		4.1	
「ボレロホワイト」												
有	70.6	*	83.5	*	62.9	*	56.8	*	5.6	*	4.8	*
無	66.7		76.1		57.8		37.8		4.9		3.9	
「一番星」												
有	74.8	*	91.6	*	63.1	ns	54.8	*	5.9	*	5.0	ns
無	69.1		86.7		63.9		44.3		4.5		4.6	
「マシュマロピンク」												
有	73.9	*	87.3	*	68.2	*	58.1	*	4.9	ns	4.2	ns
無	70.6		82.1		59.6		41.1		4.9		3.6	

同一品種内において、* および ns はt検定により5%レベルでそれぞれ有意差あり、なし